

## 五十人山の動物

### はじめに

本州では、岩手県について第二番目に広い面積を有する福島県は、森林区分では、海岸から内陸に向かって六つに分けられている。

東側から太平洋沿岸の穏やかな海洋性の気候に育つシイ・カシ林からなる浜通り低地、モミ・イヌブナ林で代表される標高300mから1,000mぐらいの丘陵地帯が南北につながる阿武隈山地、この山地と西の奥羽中央分水山地に挟まれたアカマツ林からなる中通り低地、1,500mから2,000mの奥羽中央分水山地は1,500m以下にブナ林が、それ以上にアオモリトドマツを主とする亜高山帯針葉樹林がみられ、分水山地の西には会津盆地、そして会津山地が位置し、越後山脈へと続いている。

阿武隈山地の中央部には日山（天王山、標高1,058m）・五十人山（883m）・高瀬川溪谷・大滝根山（1,192m）・矢大臣山（965m）・高柴山（884m）・東堂山（668m）などがあり、このあたり一帯が阿武隈高原中部県立自然公園に指定されている。

今回紹介する五十人山は、双葉郡葛尾村と都路村

の村境いにあり、山頂へは葛尾村の西ノ内と湯ノ平から向かう方法と、都路村の持藤田から向かう方法の三通りがある。五十人山の山開きは、5月20日より後の日曜日に行われていて、毎年千人程の登山者が、葛尾村や都路村はもとより、大熊・富岡・檜葉町などからもやってくる。山頂までの標高差は、おおよそ300mあり、ゆっくり登り降りするだけなら、2時間ぐらいのハイキングになる。

以前、山頂での火の不始末から、ツツジの大群落を燃やしてしまったことがあったが、その後ツツジの群落は年々勢いを増し、現在では、往時をしのば



五十人山の平坦な山頂部